

## 継続事業 東ティモール

## 農業用水改善事業

— 地球にも女性にもやさしい点滴灌漑を使って、貧困削減と女性のエンパワメントを目指す —



活動地域: エルメラ県アッサベ郡の4村内12集落

事業期間: 2020年3月31日～2024年2月13日(うち、2020年3月31日～同年10月31日の約7か月間と2021年1月1日～同年2月13日の約1か月半は新型コロナウイルス感染拡大に伴い活動休止)

事業規模: 当年度支出額52,245千円(総事業規模: 約160,950千円)

主な支援者: 外務省、支援組織、個人

12 グループ

農民グループ(集落)の数

787.5 m<sup>2</sup>

点滴灌漑を設置した野菜苗床面積

569 人

2年次に設備維持管理委員会の  
定例会合に参加した延べ人数

©Sarah Wiles/CARE

## 課題

活動地のエルメラ県アッサベ郡では、多くの人々が零細農業を営んでいますが、農業生産性は低く、生業状況は脆弱なため、貧困度の高い地域となっています。背景には、気候変動に伴う天候不順等、様々な要因がありますが、乾季の水不足も農業を妨げる大きな要因です。雨季の天気に頼った穀物の生産だけではなく、農業を多様化し、年間を通じ作物が収穫できる環境への改善が求められています。そのためには、農業用水設備の整備を進め、乾季の水不足を解決することが重要です。また、膨大な労力を必要とする水汲みと農作物への水やりは女性農民が主に担っています。貯水タンクや点滴灌漑設備などを設置することで、安定的な農作物の収穫が期待でき、さらに水汲みや水やりにかかる労働から女性農民を解放することが可能となります。

活動  
内容

2年次から3年次にかけた本年度は、一年を通して野菜を栽培できる環境を整備すべく、2年次対象の7グループ(集落)の共同農地に水を供給できる農業用水設備を造成し、野菜苗床に点滴灌漑を設置しました。その過程で、環境への負荷が少ない土壌改善にも取り組むことで、長期的に見て収量が低下しない、持続可能な農業生産に繋がりました。そして、収穫した野菜の販売による収入創出は農民のモチベーションを高めました。また、造設した設備を長期的に維持管理していくため、農民グループを主体とする維持管理委員会を、各グループから6名選出し計42名によって設立し、規定を策定しました。さらに、それぞれの農民グループメンバーの能力を強化するため、取水と土壌管理研修、設備の保守修繕研修、修繕費の集金管理研修等を実施しました。これら様々な能力強化研修によって得た知識と技術を定着させていくため、3年次には、定期的な指導と振り返り研修の機会を設けていきます。一方で、活動に積極的でないメンバーの存在が課題となっています。要因としては、資金管理についての説明責任の欠如、不公平感到起因するメンバー間の不和、より多くの現金収入を得られる活動や地域の伝統行事への参加を優先させる等があげられます。

## 受益者の声



## ジョアナさん

これまでは、水を汲みに行き、手で水やりをしていました。この事業で、水源から農地まで水を引き、点滴灌漑設備を敷設しました。貯水タンクの建設は、コミュニティ開発の役に立っており、野菜栽培以外にも、洗濯や水浴びなどにも水を使えるようになりました。さらに、有機肥料や有機農薬の作り方や、男女が協力してグループで働くことなどを学びました。会計、リーダーシップ、農業、ジェンダーについての研修は、初めて参加したので、大変興味深かったです。点滴灌漑も初めて使いました。ビニールハウスや点滴灌漑設備を敷設したことが野菜作りに効果があったと思います。野菜を売って収入を得たり、家族で食べたりできるようになりました。また、カリフラワーやキュウリなどはこれまで植えたことがなかった新しい種子を栽培することもできました。今後は、市場や学校給食に栽培した野菜を売りたいと考えています。